

令和4年度 南アルプス市立若草小学校 学校評価 前期自己評価書

南アルプス市立若草小学校
校長 時田 直人

1 学校評価について

1 学校評価の目的 …学校評価ガイドライン (H28 改訂版) より

- ①各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ②各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 評価方法

(1) 実施期日 令和4年7月上旬

(2) 評価・アンケート項目

学校教育目標・目指す学校像・めざす児童像・めざす教職員像等を指針とし、以下の分類で項目を設定し、教職員による自己評価、児童に対するアンケートを実施した。

- ①教職員自己評価：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「学校経営」「学校行事」「研究・研修」「施設・設備・安全管理」「家庭・地域との連携」
- ②児童アンケート：「学校生活」「学習指導」「家庭学習」「生徒指導」「携帯電話」

(3) 回答方法

Google Forms による Web 上での回答とした。

(4) 分析・考察に向けての評価基準

①各項目について、下表の4段階で評価・回答を得た。4と3の評価・回答を合わせて肯定的意見(プラス評価)、2と1の評価・回答を合わせて否定的意見(マイナス評価)としてとらえた。

4：そう思う	3：どちらかというと思う	…肯定的意見(プラス評価)
2：どちらかというと思わない	1：そう思わない	…否定的意見(マイナス評価)

②各項目の平均値(少数第1位まで)を算出し、下表のように設定したカッティングポイントを判定基準ととらえるなかで、分析・考察につなげた。

[カッティングポイント]

3. 0以上	…	A(良好である)
2. 9～2. 5	…	B(概ね良好ではあるが、工夫・改善の余地がある)
2. 4～2. 1	…	C(工夫・改善が必要である)
2. 0以下	…	D(根本的に工夫・改善を図る必要がある)

※上記(1)の評価項目について、(2)の評価基準に照らし合わせながら、各学年による検討を行い、それを基に全体を通しての分析・考察を実施することにより評価結果とした。

2 前期自己評価結果（自己評価書）

1 本年度の学校教育目標、めざす学校・児童・教職員像について

【学校教育目標】

- ①かしこい子ども
- ②美しいものに感動する子ども
- ③思いやりのあるやさしい子ども
- ④たくましく生きぬく子ども

(1) めざす学校像

- ①児童にとって楽しく希望にあふれ充実した学校
- ②保護者にとって信頼できる学校
- ③教師にとって創意が生かされ働きがいのある学校
- ④地域にとって開かれた学校

(2) めざす教職員像

- ①使命感と情熱にあふれる教職員
- ②児童と真剣に向き合い、心を理解できる愛情あふれる教職員
- ③豊かな人間性と教養、専門的知識を兼ね備えた教職員
- ④保護者及び地域の期待に応え、信頼される教職員

(3) 児童の具体目標

- ①授業に集中する子ども（話を最後までしっかり聴くことのできる子ども）
- ②気持ちのこもったあいさつができる子ども
- ③一生懸命にそうじができる子ども
- ④体育や休み時間に元気に活動できる子ども

2 教職員自己評価、児童アンケートについて

自己評価・アンケートの各項目内容および項目数については、調整・精選し、焦点化・明確化を行い、小中一貫教育にかかわる評価の観点を追加した。なお、保護者アンケートについては年間の総括として後期のみの実施とする。

3 評価と改善策

(1) 評価の全体的な概略

①職員による自己評価

- ・全12項目においてA判定であった。

本校の教職員が、学校教育目標やめざす学校像等（以下、学校教育目標等）を意識して教育活動（職務）の遂行に努めていることが確認できた。

- ・今年度も、コロナ禍においてもできる限りの教育活動を実施しており、教職員一人一人が昨年度以上に学校教育目標等の達成に向け内容レベルの向上を目指している様子が読み取られる。
- ・評価が低い（3.1）項目がある。

⑧「特別支援教育の充実」については、校内支援体制の充実という点で、人的な制約を抱えている現状がうかがわれる。

校内研究等を通じて特別支援教育についての理解を一層深め、個々の力量を上げるとともに、人的確保も視野に入れ特別支援教育を充実していく必要がある。

①②「家庭・地域との連携」については、学年・学級だより等による連絡、日々の電

話連絡等、誠実できめ細かく家庭との連携を図っている。一方、ホームページを用いた積極的な情報発信ができていない現状がある。

今後は、情報手段の積極的な活用も図りながら、家庭、地域との信頼関係の構築に努めていく必要がある。

②児童によるアンケート

- ・全4項目においてA判定であった。(携帯電話に関する項目を除く)

コロナ禍ではあるが、教職員もこれまで以上に工夫を凝らして授業に臨んでいる姿勢が、児童にも伝わってきていることが考えられる。

- ・評価が低い(3.4)項目がある。

②「学校の授業はわかりやすいですか」の項目については、やや低い評価となった。支援スタッフの協力も得る中で個別対応を充実させ、授業改善に取り組んでいく必要がある。

以上が前期学校評価の全体的な概略であるが、この結果については、教職員全体で真摯に受け止め、共通理解をもって改善に努め、2学期以降の教育活動に生かしていきたい。

なお、携帯電話の項目については、市で統一した内容での調査の為、全体的な評価の概略からは除外してある。

(2) 分類毎による項目の評価と改善策

I 学校生活について [対象：教職員・児童]

【考察】

- ・自己評価、アンケートともにいずれの項目についてもA判定であり、概ね良好な学校生活を送られている状況がうかがえる。
- ・児童の否定的回答が8.9%を示しており、看過できない状況がある。

【改善策】

- ・児童の居場所づくりに努め、学ぶ楽しさ、人と関わる楽しさを経験できるような学校・学年・学級づくりを行っていく。また、達成感や満足感を得られるような経験を今後も継続的に仕組んで教育活動を行っていく。

II 学習指導・III 家庭学習について [対象：教職員・児童]

【考察】

- ・自己評価、アンケートともにいずれの項目についてもA判定であり、概ね良好な学習活動が進められている状況がうかがえる。
- ・「学習指導」の項目では、教職員は教材研究を重ね、授業改善に取り組んできた成果が反映されていると思われる。今後も、不断の授業改善を怠らない。
- ・「家庭学習」の項目では、強化週間の取組や家庭の協力もあり、肯定的な評価となっているが、自主学習など個人差が大きい現状がある。

【改善策】

- ・「学習指導」および「家庭学習」については、2学期以降、全国学力・学習状況調査の結果も踏まえ、実態把握に努める。
- ・「学習指導」については、PDCAサイクルを意識した普段の授業改善に取り組み、教科担任制の工夫、教育課程の見直し・検討を重ねていく必要がある。
- ・「家庭学習」については、これまでの強化週間等の継続的な取組を継続し、引き続き家庭の

協力も得ながら連携して学習習慣が身につけられるように進めていく。

IV 生徒指導について [対象：教職員・児童]

【考察】

- ・自己評価、アンケートいずれの項目についてもA判定であり、おおむね良好である。
- ・教職員は児童理解に努め、いじめや問題行動等の対処も適切に行っている状況がみられる。
- ・児童アンケート「学校で困ったとき、相談できる人がいますか」の項目について、否定的回答率が13.4%あるので、対応策が求められる。

【改善策】

- ・全国学力・学習状況調査やQU調査等の結果を活用し、児童の声に耳を傾け、日ごろから子どもとのコミュニケーションを大切にし、いつでも児童が話しやすい雰囲気づくりと親身な対応を心がける。
- ・学校での児童の様子や指導した内容を適時に家庭へ伝える等、学校と家庭の連携を今後も継続的に行い、同一歩調で児童の成長を支えていく。

V 学校経営について [対象：教職員]

【考察】

- ・いずれの項目についてもA判定であり、真摯に取り組んでいる状況をうかがえる。
- ・「特別支援教育」に関する項目が3.1とやや低い評価であった。

【改善策】

- ・今後も互いに連携を図りながら学校づくりに努めていく。
- ・特別支援教育について、校内研究でも計画的に取り上げ、教職員全体で力量を高め一層充実した教育活動を進められるよう、局所的な過重負担を減らし、広く支援の行き届く学習環境の構築を目指す。

VI 学校行事について [対象：教職員]

【考察】

- ・A判定の評価であった。
- ・コロナ禍であっても感染症対策を十分確保し、できる限りの教育活動を行うという校長の方針が浸透していることがうかがえる。

【改善策】

- ・今後も丁寧な説明と情報発信に努め、理解を得ながらできる限りの教育活動を行う。

VII 研究・研修について [対象：教職員]

【考察】

- ・A判定の評価であった。
- ・GIGA 研修や小中一貫への取組も精力的に行い、良好な校内研究の運営がなされている状況をうかがえる。

【改善策】

- ・今後も教職員全体で共通理解を図り実践を積み重ねていく。

VIII 施設・設備 安全管理について [対象：教職員]

【考察】

- ・A判定の評価であった。

・老朽化に伴い不備等あるが、施設・設備を大切に活用している状況がうかがえる。

【改善策】

- ・今後、可能な限り修繕等を行い、校舎や施設を大切に利用していく。
- ・安心・安全な新校舎の実現に向け、関係者・諸機関と密に連携して取り組む。
- ・交通安全対策として、継続して「見守り隊」の協力を頂き、登下校の安全確保に努める。

IX 家庭・地域との連携について [対象：教職員]

【考察】

- ・A判定の評価であった。
- ・学校・学年・学級だより等による連絡、日々の電話連絡等、誠実できめ細かく家庭との連携を図っている。
- ・ホームページを用いた積極的な情報発信ができていない現状がある。

【改善策】

- ・今後は、情報手段の積極的な活用も図りながら、家庭・地域との信頼関係の構築に努めていく必要がある。
- ・保護者や地域の方々を学校にお招きする機会や、相談及び要望に対応する場面を、情報共有・発信のチャンスとらえ、良好な関係作りの一助とする。

携帯電話について [対象：児童]

【考察】

- ・所有率47.4%、家庭でのルール決めについては、77.8%であった。
- ・ルール決めについて、親子で話し合いをして決めてもらえるように家庭への投げかけを欠かさないようにする。
- ・インターネットやSNSを利用する際の注意点については、家庭と連携しながら、より有効で安全な利用の仕方について、折に触れ指導していく。